

## 順天堂大学医学部腎臓内科学講座／ 順天堂大学医学部附属順天堂医院腎・高血圧内科

合田 朋仁 (准教授, 医局長) / 鈴木 祐介 (教授)  
Tomohito GOHDA Yusuke SUZUKI



<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/clinic/zinzo/>

### ◆ 順天堂大学の沿革と医局の概要 ◆

順天堂大学医学部の附属病院である順天堂医(醫)院は、楽器店やスポーツ用品店が建ち並ぶ御茶ノ水駅から徒歩5分の神田川沿いに位置しています。順天堂の創立は、古くは佐藤泰然先生が江戸薬研堀に蘭学塾和田塾を開設した1838(天保9)年とされています。その後、1843(天保14)年に江戸から千葉の佐倉に移住し、「順天堂」が開設されています。ちなみに「順天」とは、中国古書にある「天の道に順」に由来しています。最終的に、現在の御茶ノ水に病院を移し開設したのは、1875(明治8)年になります。そして1946(昭和21)年には順天堂医科大学となり、1951(昭和26)年に順天堂大学となり、現在に至ります。

順天堂大学医学部附属病院には、本院に位置付けられる順天堂医院の他に5病院(静岡病院、浦安病院、練馬病院、順天堂越谷病院、順天堂東京高齢者医療センター)あり、総病床数3,200床を超える日本最大規模の大学附属6病院群で構成されており、各附属病院の人事異動は本院の教授が統括しています。すなわち、附属病院のすべての医師は、基本的には本院医局出身者であり、人事交流も盛んであるため、いつも和気藹々としています。

腎臓内科学講座は1969(昭和44)年の臓器別講座導入時に設置され、初代の小出輝教授から小出輝教授、富野康日己教授と引き継がれ、2016年8月からは鈴木祐介教授が4代目教授を務めています。当講座は本院では、腎・高血圧内科として診療科を担当しています。さらに、中央診療支援部門に属する透析療法室の運営も当科が行っています。

### ◆ 臨床 ◆

外来患者月約3,000名、入院患者年間約900名の診療を行っています。外来診療では、IgA腎症などの慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症など多岐に渡る腎疾患に加え、難治性高血圧、稀少疾患であるファブリー病や遺伝性血管性浮腫(HAE)の診療を行い、近隣の医療機関と病-病、病-診連携を積極的に行っています。また、健診で蛋白尿・血尿などを指摘され紹介されてくる症例には、病理診断および今後の治療方針を決定するために、腎生検による精査を年間約100件行っています。さらに、原発性アルドステロン症など二次性高血圧の診断のために、負荷試験などの短期入院も積極的に行っています。外来維持血液透析患者、腹膜透析患者は各60名、20名以上おり、新規透析導入症例数は年間90件程